

観光地浅草■乗降1日100台■通学路なのに

小学校前 バスの列困る

浅草寺（東京都台東区）を訪れる観光バスの大部分が乗降場になっている区道に、歩道が整備される見通しとなった。児童らの通学路となっている片側一車線の狭い道なのに、国際的観光地・浅草を訪れる大型観光バスが集中し、客待ちの行列が常態化している。登下校の児童の安全を心配する保護者らの声などを受け、区はようやく対策に乗り出した。

（村松権主磨）



観光バスが列をつくる台東区の区道「東参道・二天門通り」の乗降場。右奥の三角屋根の建物が区立浅草小学校。東京都台東区で

路側帯を歩道に、というが…

区道は浅草寺の東に延びる「東参道・二天門通り」で、幅約十一メートル。歩道はなく、白線を引き、部分的にガードレールを設置した幅一・五五～一・七五メートルの路側帯が両側にある。

不定期に運行される観光バスは、原則として道路上に乗降場を設置できず、浅草寺周辺には正式な乗降場がない。区は二〇二二年、区道に面した台東区民会館一階に観光バスの駐車場があることから「苦肉の策」として、この区道沿いの公園に屋根を設置して、乗降場にした。誘導員も二人配置し、先月下旬以降、土日祝日は三人に増やした。

しかし、公園の南には区立浅草小学校が隣



接し、区道は通学路となっている。乗降場には平日でも一日八十台、土日は百～百三十台の観光バスが利用するので、大型バスの車列は日常茶飯事。「多い日は八台が連なる」

（住民）状態で、対策を求める声が以前からあった。二月下旬、すぐ近くの交差点で学校帰りの浅草小三年生の男の子がバスと接触し、左腕を骨折する事故が発生した。PTAの松村智成会長は「もう我慢できない」と三月、歩道の整備や乗降所の撤去などを求める要望書を

吉住弘区長に渡した。こうした動きを受け、区は、道路の両側に、車道と段差がある幅二メートルの歩道を設けることとした。一三年度の完成を目指す。

区などは先月、約三百メートル離れた江戸通り沿いに乗降場を新設してバスの分散を図ろうとした。だが、「浅草寺から遠い」（観光バス運転手）などの理由から、あまり使われていない。区は「スカイツリーが開業すれば観光バスはさらに増加する」とみて、さらなる観光バス対策を模索する。